

[成果情報名]耐倒伏性に優れる早生の飼料用米水稲新品種候補系統「岩手 122 号」

[要約]「岩手 122 号」は、寒冷地中部では、出穂期、成熟期とも“かなり早”の粳系統である。岩手県で栽培されている飼料用米品種「つぶみのり」に比較して、耐倒伏性が強く、いもち病に強く、安定多収である。

[キーワード]飼料用米、早生、耐倒伏性

[担当]岩手県農業研究センター技術部作物研究室、東北農業研究センター・水田作研究領域・水稲育種グループ

[代表連絡先]電話 029-838-8536

[区分]東北農業・作物生産（稲品種）

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

米粉、飼料用米等の普及拡大のために、地域に適した多収稲品種の育成が求められている。東北地域中北部では、多収性に耐冷性、耐病性等を付与する必要があり、品種育成を効率的に進めるために東北農業研究センター、青森県産業技術センター、岩手県の3者で多収稲品種育成の共同研究を行っている。岩手県中北部の現行飼料用米品種「つぶみのり」は、倒伏しやすいことが問題となっており、生産現場から耐倒伏性を強化した早生の飼料用米品種を強く求められてきた。そこで、早生で耐倒伏性に優れる品種を東北農業研究センターと岩手県で共同育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「岩手 122 号」は、東北農業研究センターにおいて 2009 年に、早生で大粒・多収の「羽系飼 1170」を母とし、いもち病抵抗性、耐冷性に優れる「岩手 95 号」を父として交配が行われ、雑種集団養成、圃場における立毛個体選抜およびいもち病圃場抵抗性遺伝子 *pi21* と連鎖する DNA マーカー（RM1359）を用いた選抜の後、岩手県農業研究センターにおいて系統選抜・固定が行われた粳系統である。
2. 岩手農業研究センターにおける出穂期、成熟期は「つぶみのり」よりやや早く、出穂期、成熟期とも“かなり早”である（表 1）。
3. 稈長、穂長は「つぶみのり」よりやや短く、穂数は少ない。草型は“穂重型”である（表 1）。
4. 耐倒伏性は“強”で、「つぶみのり」より明らかに少ない（表 1）。
5. いもち病真性抵抗性遺伝子は“*Pii*”と推定され、葉いもち圃場抵抗性は“かなり強”、穂いもち圃場抵抗性は“かなり強”である（表 1）。いもち病圃場抵抗性遺伝子 *pi21* を保有していると推定される。
6. 障害型耐冷性は“やや強”である（表 1）。
7. 粗玄米重は「つぶみのり」と同等で多収である（表 1）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：飼料用米生産者
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：岩手県中北部。「つぶみのり」生産地域に 1,200ha（2020 年目標）。2017 年 2 月に岩手県の飼料米奨励品種に採用予定。
3. その他：本系統は、東北農業研究センター、青森県産業技術センター、岩手県の共同研究「東北地域中北部向け多収稲品種の共同育成」に基づき育成された。

[具体的データ]

表 1 「岩手 122 号」の特性概要

調査地	岩手県農業研究センター		軽米町(奨励調査)	
栽培条件	移植・標肥区(14kgN/10a)		移植・標肥区(13kgN/10a)	
調査年次	2013年～2016年		2016年	
系統名・品種名	岩手122号	つぶみのり	岩手122号	つぶみのり
出穂期の早晩	かなり早	早		
成熟期の早晩	かなり早	かなり早		
草型	穂重	中間		
出穂期(月・日)	7.26	7.31	8.03	8.05
成熟期(月・日)	9.09	9.15	9.22	9.29
稈長(cm)	84	91	71	76
穂長(cm)	19.0	19.7	18.5	18.3
穂数(本/m ²)	355	531	321	447
耐倒伏性 (倒伏程度)	強(0.0)	やや弱(4.7)	(0.0)	(0.4)
耐冷性	やや強	やや強		
いもち病 遺伝子型	<i>Pii</i>	<i>Pia, Pib</i>		
抵抗性 葉いもち	かなり強	やや強		
穂いもち	かなり強	中		
粗玄米重(kg/a)	73.9	74.0	76.3	75.2
玄米重標準比(%)	100	100	101	100
玄米千粒重(g)	24.0	22.0	24.0	22.6
玄米品質	7.5	7.7	5.6	3.6

注) 倒伏程度は0(無)から5(甚)の6段階評価、玄米品質は上上から下下の9段階評価。



図 1 「岩手 122 号」と「つぶみのり」の倒伏程度

(太田久稔)

[その他]

研究担当者：小舘琢磨（岩手農研）、太田裕貴（岩手農研）、藤岡智明（岩手農研）、仲條眞介（岩手農研）、野々上慈徳（元岩手農研）、小綿寿志（岩手県）、菅原浩視（岩手県）、佐々木力（岩手県）、太田久稔、山口誠之、福嶋陽、梶亮太、中込弘二
 発表論文等：太田ら品種登録出願予定（2017年）